# 鳥海山の湧水が残した

# 小山崎遺跡（こやまざきいせき）

遠き世の縄文人も住まいせし里

**山形県遊佐町**

地下深く埋もれし遠き世の生活（たつき）いま展（ひら）かれぬ光の下に
縄文の人智は現に侮れず暫し消えざりわが驚きは
陸となり海底となりし幾億の時空の末のわれは一点
われはしもここに生きたる縄文の血を継ぐひとり幸ならずやは
五千年水漬き保つ証なりわが前に在る確かなるもの
整ひて全（まつた）き形は想ふのみ欠けたるものにわが魅せられて
埋葬の慣ひの跡の著（しる）くして杳（はる）かなる日の悲しみを知る
骨いくつ出でたる中のひと欠けの頭蓋のいろの何故に親しき
鹿の猪の骨に混りて現れし鯨骨ふしぎ飴色といふ
黒色と朱色の漆器出でしとぞ仄聞（そくぶん）のみに心残りぬ
縄文の声に呼ばるる思ひして触るる骨片掌に温かし

元遊佐町文化財保護審議会委員
阿部京子氏


お問合せ

**遊佐町教育委員会**

〒999-8301 山形県飽海郡遊佐町遊佐字舞鶴211
電話番号：0234-72-5892
メールアドレス：yuzamaibun@town.yuza.lg.jp


（平成30年3月改訂）

# 1 小山崎遺跡の位置

## 鳥海山南麓の小山崎遺跡

小山崎遺跡は山形県の最北、秋田県に接する遊佐町吹浦地区に所在します。

遺跡からは東に鳥海山、南に月山を望むことができます。

すぐ近くには、サケの遡上で知られる湧水の川「牛渡川」、国指定史跡鳥海山の区域内にある信仰の泉「丸池様」があり、この辺りは、古くから自然への信仰が厚い特別な地域でした。

## 縄文の泉「丸池様」

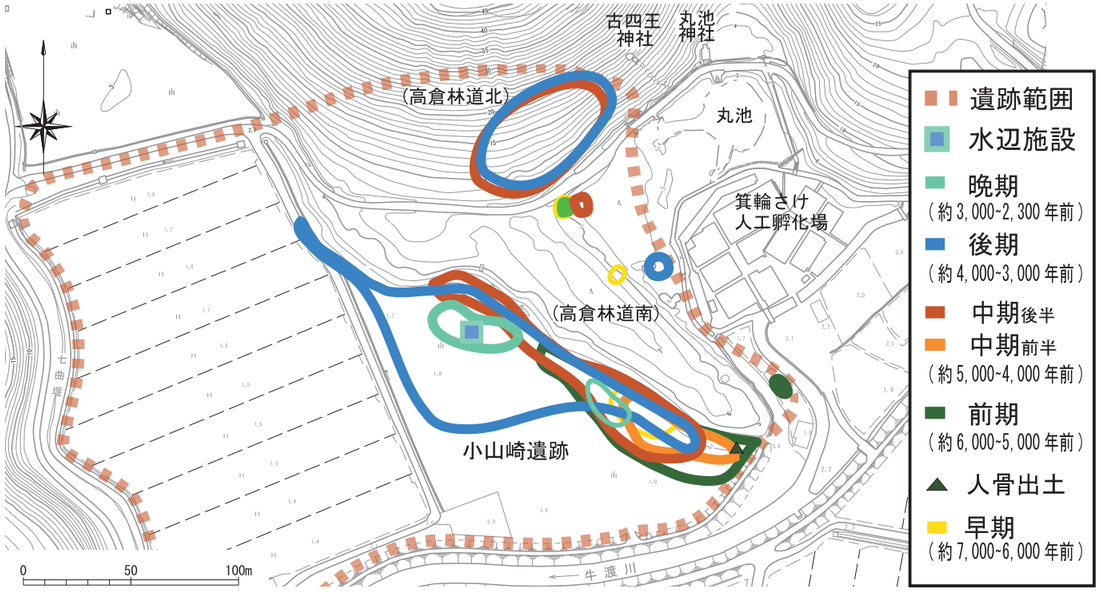
現在でも信仰の対象になっている丸池様は、調査の結果、縄文時代から存在したことがわかっています。

丸池様

# 2 環境の変化と活動範囲

鳥海山南側の裾野と平地が接するところ、その裾野には小山崎の縄文人が暮らした住居群が残っており、平地は低湿地で動物の骨・木材・種実までもがとても良好な状態で出土します。

調査結果から各時代ごとの様子を見てみましょう。




### 約7,000年～6,000年前（早期）

当時は今よりも暖かかったため、遺跡周辺は海水が入り込む(縄文海進)、潟湖でした。

そのため小山崎に最初にやってきた縄文人は遺跡東側の小高い場所で活動していました。

### 約6,000年～5,000年前（前期）

早期末に最大に達した海進の影響で干潟が残り、この時期にシジミ主体の貝塚が形成されます。また、発根をおさえるために先端を引きちぎったドングリ(コナラ)もまとまって発見されました。

### 約5,000年～4,000年前（中期）

中期終わりの気温が低くなり、海水がほぼ現在の位置に退いた頃、遺跡の北側の斜面に住居を構えるようになります。水辺の施設をつくりはじめるのもこの時期です。

### 約4,000年～3,000年前（後期）

中期とほぼ同じ場所に住居を構え、低地に本格的に進出します。水辺の施設での活動が最も活発になる時期です。

### 約3,000年～2,300年前（晩期）

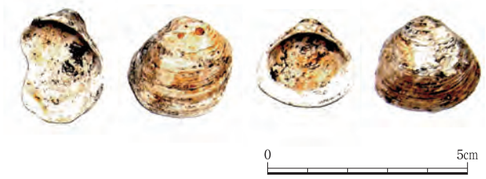
水辺の施設は継続して利用していますが、徐々に活動の痕跡は見えにくくなっていきます。彼らはこの時期を最後に新たな地へ移動したようです。

# 3 貝塚と、発見された人骨 ― 約6,000年前 ―

## 貝塚（かいづか）

現代でいう「ゴミ捨て場」であり、食べかすや壊れた道具などを捨てていました。しかし、単なる捨て場ではなく、自然の恵みや道具に感謝し、供養（くよう）と再生を祈った「もの送りの場」でもありました。

ヤマトシジミ




## 人骨からわかる小山崎人の食生活

人骨を調べることによって、死亡するまでのおおよそ10年間に主に何を食べていたかを知ることができます。

小山崎の縄文人は、植物や動物など様々なものを食べていました。

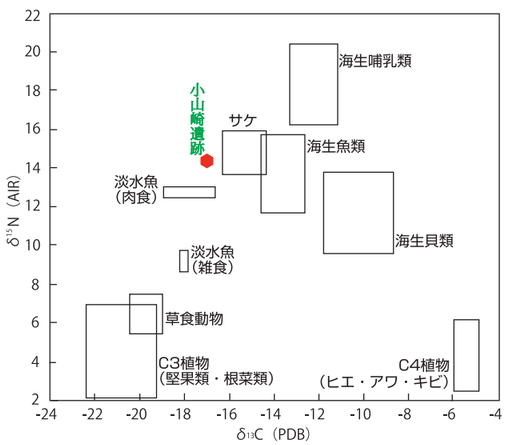
今回人骨を分析した結果、その中でも海産物を多く食べていることがわかりました。

頭の骨

太ももの骨

下アゴの骨

貝塚の下から発見された人骨
（所蔵：山形県立博物館）






# 4 山際の住居群 ― 約4,200年～3,000年前 ―

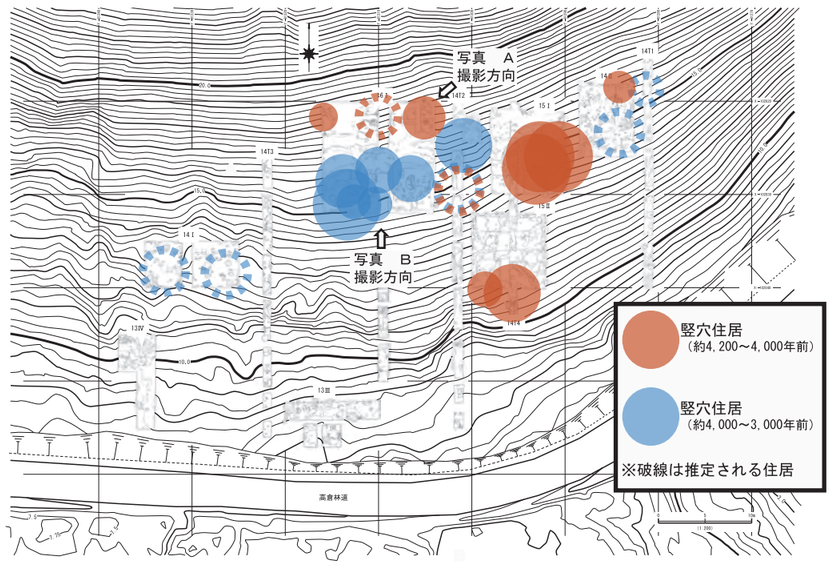
丸池様の北西斜面地からは、小山崎の縄文人が暮らした住居群が見つかっています。
住居跡の発見された斜面は、平均斜度16度となっています。
急な地面を切土（きりど）し、平らにならしてから竪穴住居（たてあなじゅうきょ）を建てました。

写真　B

写真　A

## 発見された住居群の位置図

住居跡はいくつも重なっていて、この狭いエリアで建て替えながら、断続的に暮らしていたことがわかりました。



# 5 竪穴住居の暮らしと様々な道具 ― 約 4,200年～3,000年前 ―

このイラストは発掘調査の結果や民俗例から小山崎の縄文人の生活の様子を復元したものです。
当時は地面を掘りくぼめて屋根をかけた竪穴住居に住み、
その屋根には土を被せていました。夏は涼しく、冬は暖かったようです。

（イラスト：木山由紀子）

## シカの角や骨で作られた道具

加工途中の角

ヤス

釣針
（所蔵：山形県立博物館）

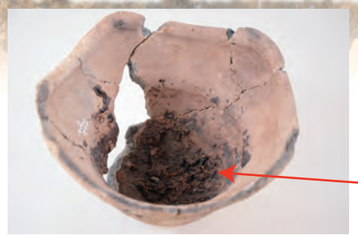
## 石斧

金属のない時代、石を磨いて斧を作り、住居を建てるための木材を加工しました。

使用例
（写真提供：新潟県埋蔵文化財調査事業団）

## 石匙

携帯ナイフとして使われていました。
赤い囲み部分には、紐を巻き付けてアスファルト（黒色部）で固めた跡が残っています。



**漆が固まって残った土器**
漆は器などに塗るだけでなく、アスファルトと同じく接着剤として使われることがありました。

火棚にはクリ・ドングリ・クルミなどの木の実を置き、牛渡川からとれたサケも吊るされています。
秋のうちにとったこれらを乾燥させたり燻したりすることで、保存食としていたようです。

## 流れ着いたココヤシの実

海岸で拾った実を持ち帰り、容器として利用したと考えられます。

ココヤシの実
（破片、外側）

**ほぼ完全な形のココヤシ容器**

石川県・中屋サワ遺跡出土
（写真提供：金沢市教育委員会）

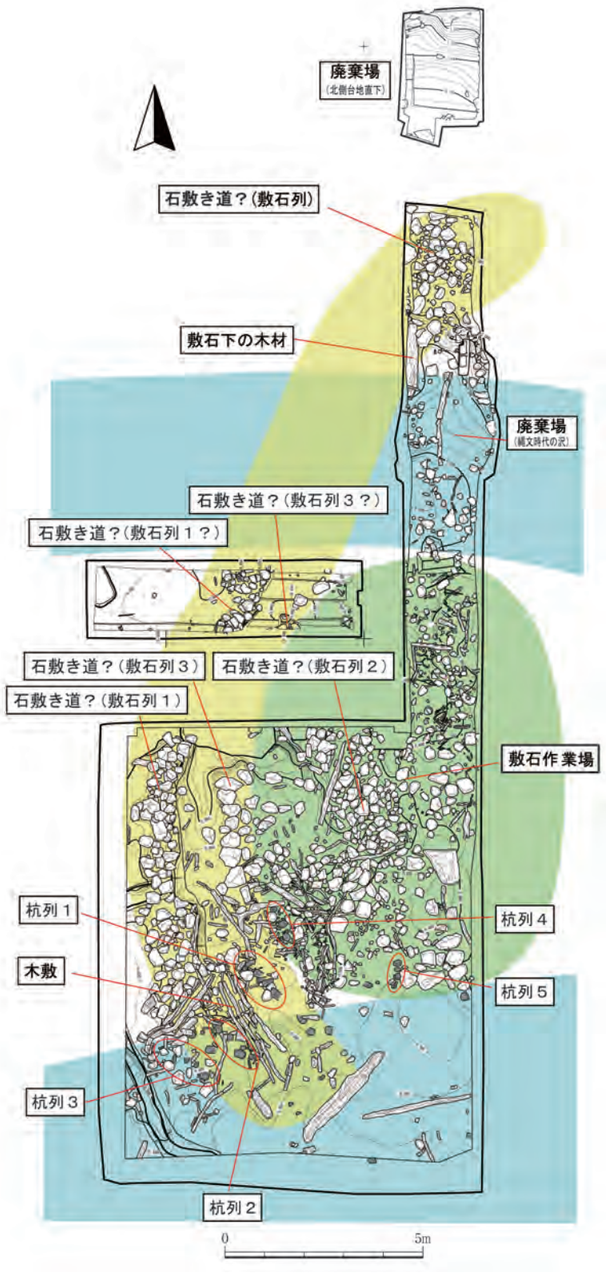
## 火種置きと、石で囲った囲炉裏

土器を土に埋め込んだ火種置きと、煮炊きのために火を焚く、石で囲った囲炉裏がありました。

火種置きに使われた土器

# 6 水辺の施設 ― 約3,500年前 ―

小山崎遺跡の水辺の施設は、これまで他の遺跡で発見された例では説明しきれない施設です。



青色の範囲には、牛渡川の支流が流れていました。そのような環境の中で、黄色の範囲の敷石列は、集落と水辺をつなぐ道の役割を果たしていました。緑色の範囲は敷石の作業場です。

## 敷石の中から発見された石皿

石皿の上に粉砕に使われた磨石が乗っている状態で発見されました。

## 作業場

川原石の平らな面をそろえて敷き詰めた水辺の足場・作業場です。

## 杭列

太いクリ材の杭を並べて打ち込んでいました。

敷石列の路肩を止めていたのでしょう。

小山崎の縄文人には、大きな石や太い杭を利用して、大規模な土木工事をする技術がありました。

# 7 狩りと弓

小山崎遺跡からは様々な動物の骨が出土します。中でも最も多く発見されるのは、イノシシとニホンジカです。それらを獲物とした狩りが行われていました。

弓弭
弓の弦をかけた部分が削り込まれていました

## 弓

左は小山崎遺跡で発見された弓です。

## 石鏃

矢や銛の先端にとりつけて使用しました。アスファルトで固定した跡（黒色部）も残っています。

## イノシシとニホンジカの骨

写真を見ると、水が染み出していることがよくわかります。
低湿地という環境があるからこそ、このように良い保存状態で出土しました。

イノシシ（下アゴ）

ニホンジカ（下アゴ）



# 8 縄文時代のサケ漁

小山崎遺跡のそばを流れている牛渡川は、現在も毎年たくさんのサケが遡上しています。秋になると決まってのぼってくるサケは、現代の生活でも欠かせないものですが、それは小山崎の縄文人にとっても同じでした。



小山崎遺跡出土の木製品
（所蔵：山形県立博物館）

## 魚叩き棒

現在使われている魚叩き棒（鮮度を保つためにサケの頭を叩く道具）によく似た形のものが発見されています。



現代の叩き棒

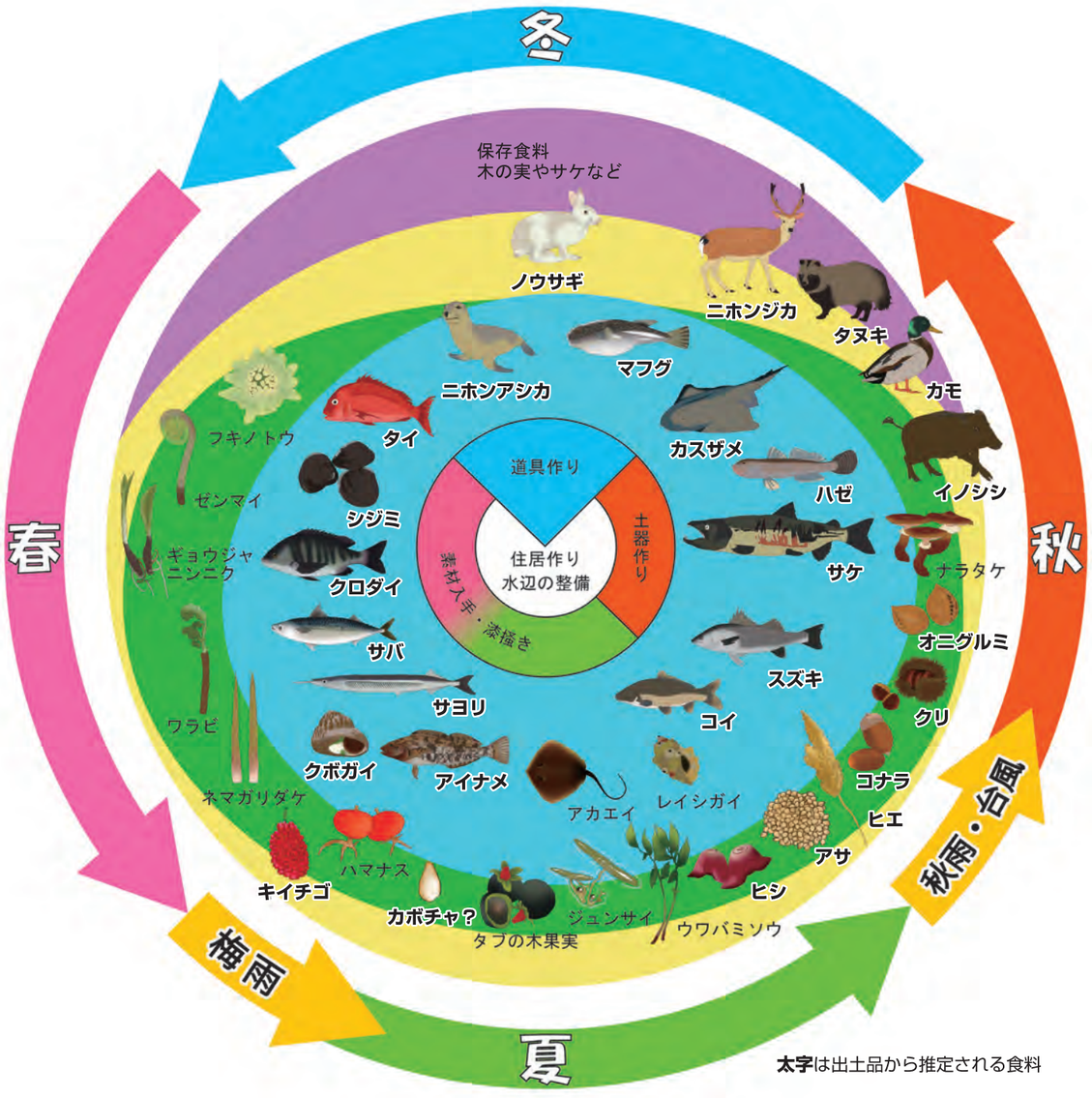
## サケの歯と骨

発掘時に持ち帰った土を水洗いした結果、サケの骨や歯が発見されています。

日本海側河川のサケ捕獲量（平成22年）
独立行政法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所　平成 22 年度調べ
秋田県埋蔵文化財センター　2012『北の縄文文化とストーン・サークル』4頁の図を改変

# 9 小山崎くらしのカレンダー

下の図は遺跡周辺の環境と出土品をもとに、小山崎の縄文人が季節ごとにどのようなものを食べ、どのような暮らしをしていたかをイメージしたものです。




**太字**は出土品から推定される食料

縄文人は、狩りや木の実拾いの合間に道具や家を作ったり、食料が少なくなる時期に備えて保存食を作ったりと、季節に応じた計画的な生活を送っていました。



# 10 縄文時代の植物利用

## 約6,000年前の土から発見された種

まとまって発見されたドングリ（コナラ）と、カボチャによく似た種が注目されます。

コナラは根が出ないよう先端が引きちぎられ、長い期間の保存が出来るよう加工してありました。カボチャは中南米原産で、16世紀頃日本に渡来したとされてきましたがもっと以前からあったのかもしれません。

ドングリ出土状況

先端が引きちぎられたドングリ（コナラ）

最古のカボチャ近似種

## 約4,000年～2,300年前の土から発見された種

栽培植物のアサや、栽培の可能性のあるヒエ・ゴボウ近似種なども発見されました。

ヒエ　アサ　ゴボウ近似種

# 11 祭りと祈りの道具

## 土偶

土偶は、人間の特に女性の姿をかたどった祭祀のための土製品です。

## 赤漆塗り木製台付舟形容器

何層にも漆が塗られ、縄文の漆器製作の技術の高さを示しています。

## 漆塗り土器

赤と黒の漆で塗り分けられ、コントラストが印象的です。

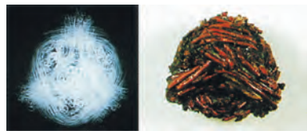
## 動物形土製品

動物をかたどった土製品も発見されています。縄文人の自然を敬う気持ちがあらわれています。

（所蔵：山形県立博物館）

## 糸玉

糸に漆をしみこませて赤漆を重ね塗りし、巻き上げられた装飾品です。



（写真提供・所蔵：山形県立博物館）

## 耳飾り

耳たぶに大きな穴をあけ、その穴にはめ込んで使用しました。

## 装身具

石や、動物の骨や歯から作られたペンダントもあります。

# ～ 小山崎遺跡からわかること ～

上空からみた
遺跡とその周辺

小山崎遺跡からは「類例のない構造の水辺の施設が見つかったこと」や「最古のカボチャと思われる種の発見」、「サケを食べていたと考えられること」などたくさんの興味深い発見があります。

中でも最も重要なことは、この遺跡が全国でも稀な動物・植物の両方が残る遺跡であることです。

単に「何を食べていたか」「どのように利用していたか」だけではなく、「動植物をどのくらいの割合で食べていたか、利用していたか」という、縄文時代の自然と人との具体的なかかわりについて明らかにすることができます。

3,800年以上もの長い間、遊佐町の自然と共に歩み続けた小山崎の縄文人（祖先）の文化を、現代社会に伝えていくことのできる貴重な遺跡なのです。

現地での
説明会の様子

## アクセス

【所在地】
山形県飽海郡遊佐町吹浦字七曲・七曲堰東・柴燈林 ほか

車で　日本海東北自動車道
酒田みなとI.C.から30分

電車で　JR羽越本線
吹浦駅から車で5分